

岩津ねぎだより

令和元年11月1日

岩津ねぎ産地協議会生産支援チーム

台風17号、19号の上陸、接近に伴い、葉折れや倒伏等の被害がありました。株起こしや土寄せの実施により、生育は回復してきました。しかし、平年に比べ降雨、曇天の日が続き、病害虫の被害等も見られ、生育は20日程度遅れていると思われま

す。11月23日の販売開始に向け、病害虫防除、追肥、土寄せ作業を徹底して行いましょう。

今後の天気は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並かやや高い予想です。

1、病害虫防除の徹底を

【秋は黒斑病の季節】

今年、早くから黒斑病の発生が見られ、現在も発生が続いています。発生条件は、気温が24~27℃で降雨が続くと多発し、肥料切れでも発生します。特に、台風や秋雨の影響を受ける時期に多発しやすく、11月頃まで発生が続きます。病斑は、葉身部や葉先に、ややくぼんだ黒褐色~暗紫色の病斑が生じます。



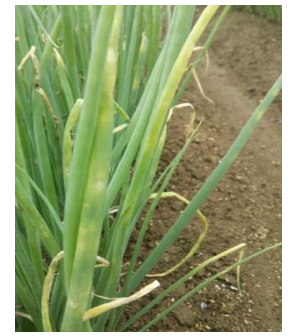
防除前には発病葉を取り除いてほ場の外に持ち出し処分します。

最近、アミスター20フロアブルの黒斑病への防除効果が悪くなっているとの声があります。同一農薬の連用は避け、下表を参考にローテーション散布を実施しましょう。

【べと病に注意】

今年、育苗時期からべと病が発生していました。発生適温は20℃前後で、降雨(多湿)条件で、病原菌が葉に寄生し、発生が繰り返し蔓延します。

連作ほ場で多発する傾向があり、過去に発生したほ場では注意が必要です。ほ場をよく確認し、下表を参考に防除に努めましょう。散布時は展着剤を使用しましょう。



薬剤(農薬) 薬剤名	適用病害	倍率	使用時期等	使用回数
オンリーワンフロアブル	黒斑病・さび病	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
アリエッティ水和剤	疫病・べと病	800倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤 ※1	べと病	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
ペンコゼブフロアブル ※2	黒斑病・さび病・べと病	600倍	収穫14日前まで	3回以内
テーク水和剤 ※2		600倍	収穫14日前まで	3回以内
アミスター20フロアブル		2,000倍	収穫3日前まで	4回以内

※1 TPNを含む農薬の総散布回数3回以内 ※2 マンゼブを含む農薬の総散布回数3回以内

2 土寄せ・追肥・止め土作業の実施

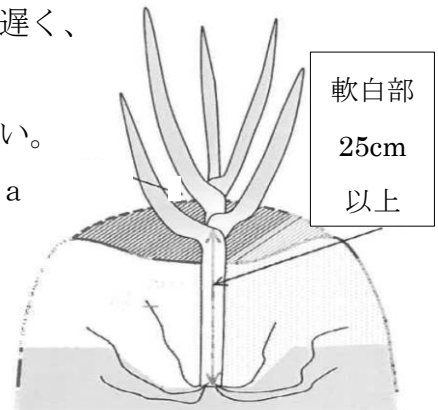
今年、8月の猛暑、台風・秋雨の影響から、ねぎの生育が遅く、土寄せ作業も遅れています。

天候、ほ場状態を確認し、早急に土寄せ作業を実施して下さい。

追肥は、土寄せ、止め土前に、燐硝安加里S604を、10a当たり30kgを必ず施用します。

1月以降の出荷用のねぎは、12月に燐硝安加里S604を10a当たり30キロ施用します。

止め土は、収穫予定日の40日前を目安に、図のように、裾首が完全に隠れる所まで十分に土を寄せます。



止め土の状況

3 雪よけ対策は必ず実施

近年は暖冬傾向にありますが、毎年12月下旬には降雪があり、葉折れ等の被害が見られます。

右の写真のように、雪よけ対策を実施して、品質向上に努めます。

特に、1月以降の計画出荷に向け、年内には、雪よけ対策の準備を進めましょう。



雪よけ対策で計画出荷と被害軽減

4 品質向上の取り組みを

年々、岩津ねぎの生育に影響する要因が発生し、栽培環境は厳しい状況となっています。ここ数年、全体的に品質は低下の傾向にあり、全国に誇る優れた品質に危機感が感じられます。

加えて他産地の攻勢と県下の地域産地の出荷力の拡大により、岩津ねぎの販路に影響を与えています。

特産岩津ねぎブランドを守るため、仕上げの管理に当たっては、例年より、白根部（真っ白）の長さを2cm長くする気持ちで仕上げの土寄せを行って下さい。

現在の生育は、平年に比べ遅れています。出荷を急がず、収穫前には、必ず試し掘りを行い品質の確認を行ってから出荷しましょう。

品質向上に取り組む生産者一人ひとりの対応が、岩津ねぎの収益拡大に繋がります。

<問合せ窓口>

和田山営農生活センター：672-4800 山東営農生活センター：670-7744
朝来営農生活センター：670-4341 朝来農業改良普及センター：672-6886